

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070202005		
法人名	社会福祉法人 タービュランス福祉会		
事業所名	グループホーム根小屋		
所在地	群馬県高崎市根小屋町1636-7		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年7月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の要望や楽しみを支援することはもちろんですが、ご家族にも満足して頂けるように心掛け、ご家族との信頼関係も築けるように関わっております。食生活では、薬にも頼りますが胃腸から元気になっていただけるように力を入れて支援しております。介護計画書に沿った支援を生活記録に残せるよう、計画実施表などを活用し、記録を実施しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所を地域の方に知って頂くために、地域交流会を開催し、子どもたちを含め9名の方が参加して、利用者と一緒に絵手紙を書くなど交流が行われ、地域との関係づくりを深めている。災害対策としては、地域と応援協定書を取り交わし、災害時の緊急連絡網が整備され、避難訓練では地域の方に見守りをしてもらうなど役割分担を担っていただき、実施している。また、日々の支援においては、全職員が、利用者一人ひとりの人生観、生活感を大切に、知り得た情報をその都度記録し、アセスメントに活かし介護計画に繋げながら、調理や手芸の経験や技術が活かせる場面づくりにより、その方の持っている力を発揮してもらい、そのことで他人に喜んでもらえるような取り組みを行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの所やホールの目の付くところに掲示して、いつでも見て心にとめるように努めている。また、理念に沿った行事の提案や実際の支援につながるよう職員は努めている。	法人の理念をもとに、事業所の理念をわかりやすい自分たちの言葉で表現し、理念を日頃の介護の指針としてとらえ、実践している。介護をする中で迷ったときは、話し合い振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板をまわして頂いたり、地域の行事に参加している。また、地域の方がお茶のみに寄って下さったり、地域交流会や施設見学会等地域の方を招待する機会を設けている。	地域の多くの方に事業所を知ってもらうため、地域交流会を実施して、見学だけでなく絵手紙教室を行い、利用者との交流を図っている。また、公民館掃除、サロン活動などに参加したり、回覧板に行事予定を載せてもらったりして、地域に根差した事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会や施設見学会等を開催し、地域のに拓ける施設になるように努めている。常時、施設見学や介護相談に応じる用意がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で非常時の備蓄の業者を紹介して頂いたり、事故報告をした際に改善策のヒントをもらった。また、頂いた意見を職員会議で話し合っている。	家族には1年に1回以上の会議参加を依頼し、参加しやすい方法を検討している。会議では、家族から親を施設に預けていることの心情が話され、家族会のような他の家族との交流を望む意見をうけて、現在企画をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事柄は問い合わせたり、あんしんセンター職員にグループホームの行事に参加して頂いたこともある。	市との関係性を大切にしたいと考え、利用者の状態も見てもらうため、介護保険の更新時には、利用者が窓口にお連れして、直接説明を聞いてもらっている。その他、体操やゲーム等を行うあんしんセンター元気塾には利用者3名を送迎したり、体操の指導に来てもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束に関する委員会があり、委員会主催の勉強会も定期的に行っている。以前は玄関の施錠はフリーだったが、外部からの侵入を防ぐため、簡易な施錠は実施している。	法人の指針に沿って、身体拘束のない介護を実施し玄関の施錠をしていなかったが、外部からの侵入者の危険性が話し合われ、運営推進会議などを通して家族に説明し、内側からは自由に外に出られる施錠に替えている。外へ出ようとする方には職員と一緒に付き添い散歩することで、本人の気持ちに寄り添うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待に関する委員会があり、委員会主催の勉強会も定期的に行っている。職員間の言葉の使い方は職員間で注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の方の相談に応じ、必要があれば積極的に支援したい。成年後見制度については職員の理解が深まるように職員会議でパンフレットを配布した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安な事柄があればその都度説明する時間を持つように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見・要望を受け付けるための『意見箱』を設置している。また、面会時や運営推進会議でも話を伺い運営に反映できるように職員間で話し合っている。	運営推進会議の議事録を送り、家族に内容を伝え知ってもらうことで、意見を言いやすいように配慮をしている。面会時などに出された意見や要望は、必ず管理者に伝え、管理者は家族と話し合う時間を持ち検討している。また、家族同士で集まって話し合える機会を検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に機会を設けたり、通常の勤務時間帯でも職員間で会話をもち、情報交換をしている。また、勤務時間帯の相談や職員が働きやすいように配慮している。	職員会議や現場での会話の中から意見を聞くとともに、出された意見は皆で検討している。職員が変わることで利用者の心身状態に少なからず影響すると考え、個別面談を行い退職者が出ない働きやすい職場づくりを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人でキャリアパスの策定を行っている。また、職員の個々の状況にあった勤務を考え、良い雰囲気サービスが提供できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実務者研修を対象とした資格取得支援金制度を作り、資格取得を推奨している。また、法人内外の研修も機会を作り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模多機能・グループホーム大会や、地域密着型連絡協議会に参加しネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を伺いながら時間をかけて対応している。また、詳しく生活歴や本人を取り巻く人間関係を知ることで安心して生活に慣れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望に耳を傾けるのはもちろんのこと、接するときの態度や言葉使いなどにも注意しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の話を伺い職員会議やその日の出勤者等で話し合いながら共通した支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることできない事を見極め、できることをお願いしたりできない事は一緒に行いながら信頼関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、誕生日にはご家族を招待しグループホームで作った食事を召し上がっていただく。また、グループホームで収穫した野菜や作ったおはぎ等ご家族の面会が重なれば御土産として持ち帰って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の場合はお墓参りにお連れしたり、以前生活していたところや、お子様宅にお連れするなど以前の生活の延長でいられるように努めている。	家族や友人の名前を忘れないように知り得た情報を書きとめ、支援している。馴染みの場所などの希望を聞き出かけたり、選挙の投票に行ったり、希望があれば墓参りに出かけたりしている。友人がお茶を飲みに来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中でそれぞれの関わりを注意深く観察し、孤立にならないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談があるば断ることなく同様に支援している。契約終了後他界された場合などは葬儀に参列したりできるだけの事をしたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	環境が同じなら半年に一度改めて希望を伺い、環境がかわればその都度意向を確認し計画書を作っている。また、本人が意向の確認ができない場合は家族の意向を確認し本人本位に考えている。	「聞き取りシート」を活用しながら本人の希望や本音を把握し、家族等から聞いた情報を追加記載して共有することで、日々の介護に活かすようにしている。意思疎通の困難な方には、入浴中やリラックスしている時に声かけを行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後に知り得た情報を記録し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化があるため生活記録に残したり、職員の申し送りノートに情報を書き込み現状を正しく把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議、生活記録、実施モニタリング表を活用し介護計画を作成している。原則半年に一回は見直しを行っている。	本人や家族の希望、アセスメントを基に介護計画案を作成し、サービス担当者会議で決定している。職員は各利用者の計画実施表を毎日チェックし、サービス内容に沿っているか確認している。状態変化なければ半年に1回見直しを行い、見直しの際は、家族に連絡をとり、意見を求めている。	介護計画に沿ってモニタリング、計画実施表は実施されているが、更に、日々の介護記録にも連動した記録内容になることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の気づきを生活記録や申し送りノートに記載している。読むことで職員は情報を共有している。モニタリングに活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の時間に間に合わない、入浴日に入浴できない、したくない。等、時間や曜日をずらし足りしながら利用者の状況に合わせてられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントや入居後に知り得た情報などから利用者の地域資源を把握している。本人や家族が望めば計画書に加えて本人のケアに取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族の意向を確認している。協力医に二週間に一度往診してもらっている。必要に応じて連絡を取り合い適切な医療を受けられるように配慮している。また、家族にはその都度連絡し情報を共有している。	希望のかかりつけ医への受診となっており、家族による受診の場合は、バイタル表(体温・脈・血圧等)を渡して生活の様子を伝えている。往診の場合も体調が悪いときは家族に立会ってもらい、医師からの説明を一緒に聞いてもらっている。職員全員が受診時の利用者の体調を把握できるように、ノートに記録をして確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースはいないため、法人内か協力医のナースに相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関との連携を密にとり早期退院ができるような受け皿作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化や終末期について指針をつくり、家族に説明同意を得ている。また、終末期だけでなく大きな状態の変化がある場合は家族、主治医、管理者と話し合いを持っている。	重度化や終末期についての指針のもと、契約時に説明をし、看取りは行っていない。重度化した場合は家族と話し合い、また、法人内で検討して、他の施設への入所をお願いしているが、事業所でできるだけのことしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備え連絡体制をとっている。またすべての職員が定期的に普通救命の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では地域の方に参加して頂き、その際は見守りを依頼している。地区の区長さんにも災害時の協力協定を結んで頂いており協力体制を整えている。	災害時には地域の協力が得られるように、「災害時の応援協定書」を結んでいる。協力体制づくりができており、避難訓練には近所に声かけをして、地域の方に見守りをして頂き訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族等の情報でその方にふさわしい呼び名で呼んでいる。その方の生き方や社会性によって個々に違うと思うので一人ひとりに合わせる工夫をしている。	本人が嫌だと言うことはしないように配慮し、呼称や排泄時などの声かけは、本人の個性を職員で相談し、それぞれにあった方法で行っている。個別の相談はプライベートに配慮し、入浴時や台所で利用者が手伝いをするときに、話を聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも気軽に言える雰囲気を作れるように日頃からなじみの関係づくりには注意している。買い物に行ったときは商品を選んでいただいたり、ヤクルトの訪問販売を受けるときも自分で好きな商品を選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の好きなことを提案したり、散歩が良ければ職員と一緒に出掛け横になりたければ横になって頂いている。本人の希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の着たい服を選んでいただいたり、整容したりする。好みの時期に散髪も選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が作る献立をもとに食事を提供している。利用者様にもできることを負担して頂き作業分担している。	自宅にいた時と同じように自分の食器を使い、希望を入れた食事内容としている。普段の食事に加え、行事食や昔から作って食べた手打ちうどんなどを提供し、利用者の経験が活かせるものを一緒に作り、食事をたのしみとともに話題作りとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃を全摘された方には小お分けに6回提供している。水分はお茶紅茶など何種類も用意し選んでいただくようにしている。また、コーヒーやお茶を利用者様が入れてくださるときもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。夜間は洗浄剤につけるなどの支援を実施。お口の体操や嚥下体操を取り入れ毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、パターンの把握につとめて必要に応じて案内や声かけを行ってトイレでの排泄ができるように支援している。	おむつの方も、トイレで排泄をしてもらいたいと心がけ、利用者の排泄パターン表を確認しつつ、本人の動きや表情のサインを見逃さず声をかけている。歩行器使用や手引き介助の方など本人のペースを保ちながら見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おなかがいいと言われるものは職員間で相談し取り入れている。薬にも頼るがなるべく頼らないよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたくない日は無理強いはいらない。入浴が好きな方には多く声をかけている。入浴時の薬や様子、変化を記録に残し、職員全体で同じ支援ができるように支援している。	本人の習慣や希望を考慮し、希望の時間に入浴ができるようにしており、日ごろ拒否する方が日曜日に入りたいたいといえば、支援している。入浴中は昔の話や普段できない話をゆっくりすることで、職員との関係も深められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、居室・ソファ・畳と好きなところで休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があれば、申し送りノートに記載し全職員で確認している。飲み残しや誤薬がない様に担当を決めて確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、縫い物、畑仕事、台所仕事、野菜の下ごしらえ、床はきなどそれぞれの得意分野で手を借りている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加したり、お墓が近い方には墓も入りもお連れする。法人内の友人に会いに出かけたり、買い物や食事など積極的に外出するように心掛けている。	散歩やドライブなどはその日の天候を見ながら出かけ、季節を感じられるように心がけている。利用者が以前から利用していた商店での買い物や好きな場所を本人や家族から聞き、希望があった時には個別に出かけたり、家族と一緒に県外に出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で一部の方は金銭を管理している。商店で自分の食べたい物を選び、職員の見守りのもと支払いもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたければかけていただく。かかってくれば電話をおつなぎする。季節の挨拶状が届けば返事を書くように声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や出来事を壁に掲示することで、利用者様が出来事を忘れていても思い出し、お話のネタになっている。また、家族にも活動の様子が伝わりやすいので好評である。	畳敷きのスペースやホールと台所が隣り合わせになっており、自由に行き来できる。少し離れた場所には、少人数でプライベートな話ができる空間がある。廊下の壁には1年間の行事等の写真が飾られ、日々の生活の様子がわかるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファはひなたぼっこや団らんの間となっている。家族や大人数でいらした際は、西ホールを活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンス、写真、植物等それぞれが思い思いに持ち込んでいる。家族との写真を貼ったりし居心地良く過ごせるように工夫している。	照明と窓の障子からの光で室内は明るく、タンスやお位牌、昔の写真など大事にしていたものを持ち込んで頂き、家にいた時と同じように過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすいように余分なものは置かない。歩行器や車いす、押し車の位置なども配慮している。		